

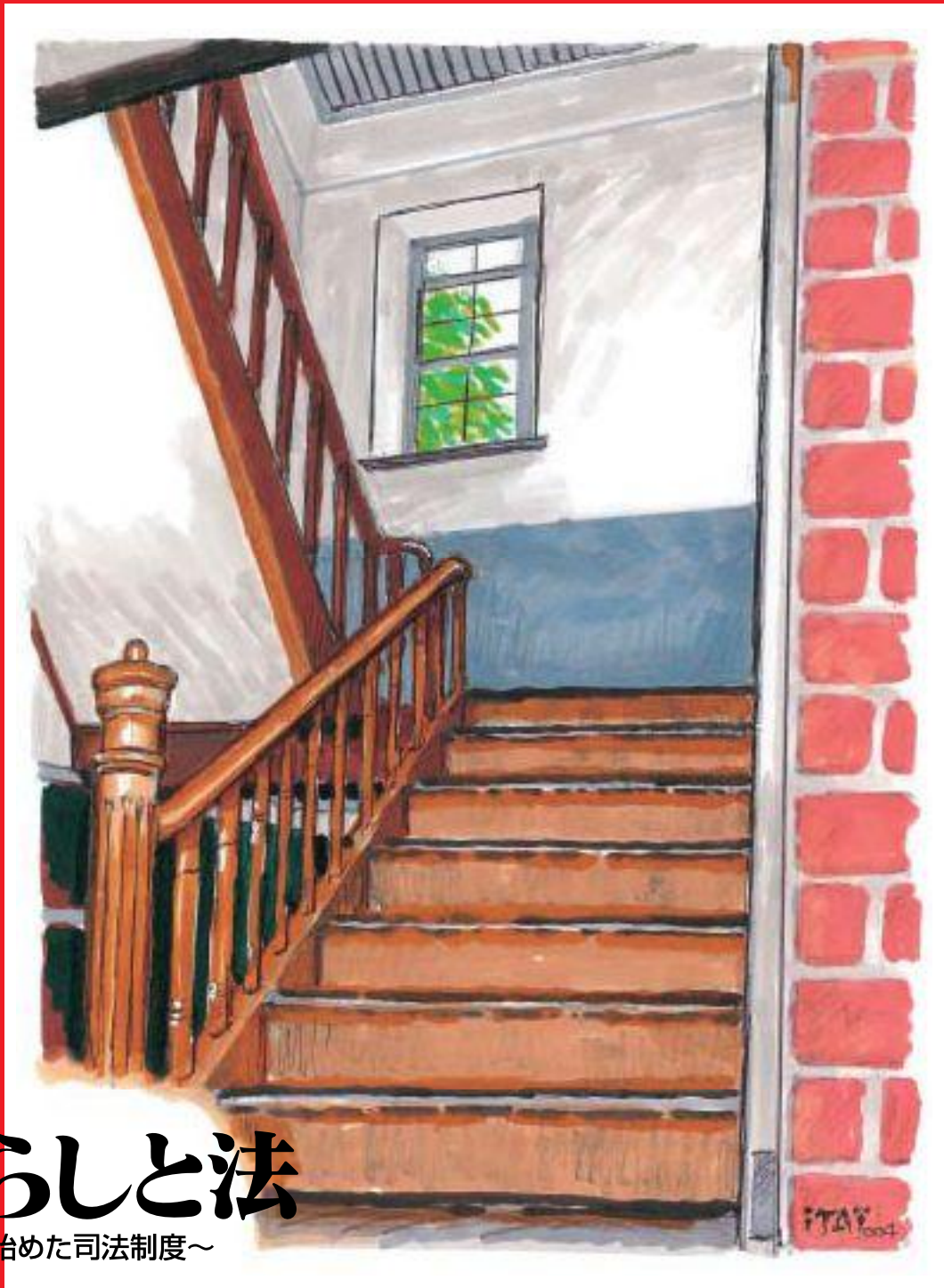
熊本大学広報誌

熊大通信

KUMADA TSUSHIN

Oct.2004

Vol.14



特集

暮らしと法

～変わり始めた司法制度～



KU4U

～あなたのための熊本大学～

熊本大学は、4つのことに全力を投入します！

- Upgrade** 未来を生き抜く人材の養成
- Unique** 新たな知的価値の創造
- Union** 地域連携と地域貢献
- Universal** 留学生教育と国際貢献

C O N T E N T S

〈目次〉

知と社会

Vol.14

暮らしと法

～変わり始めた司法制度～



P.1

P.1

夢の実現

「天体の魅力を伝える研究者」

熊本大学教育学部 助教授 佐藤 毅彦



P.6

P.6

熊大群像

「人と向き合う『礼』の心 柔道精神を伝えたい」

熊本大学学務部学生課長 富高 英雄



P.8

P.8

卒業生を訪ねて

「革新的ビジネスへの挑戦」

株式会社 エイアンドティー 松崎 駿二さん 肥川 勇二さん 平田 勝憲さん



P.10



P.10



国際交流

～国際総合大学としての熊本大学～

～もっと 学びたい～

ニュージーランド出身 ポール・ウェイさん



P.12

P.12

熊大INFORMATION

P.14

暮らしと法

（変わり始めた司法制度）

司法の世界が変わろうとしている。

今まで閉ざされたイメージが強かった法廷で、5年後には国民が裁判そのものに参加する『裁判員制度』が始まる。

また先進諸国に比べて圧倒的に少ないといわれてきた法曹の数を増やし、その質を向上しようというシステムづくりも進んでいる。

熊本大学の法科大学院では、30名が新しく始まる司法試験にむけ学びはじめた。

今後ますます進む法化社会。

身近な暮らしと法とのかかわり、法曹の役割について考えてみよう。



Takashi Inada

法学部教授

稲田 隆司

市民の肌感覚を反映する「裁判員制度」

平成16年5月、「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」が公布された。これを受けて平成21年までにあたらしく「裁判員制度」がスタートする。この制度は、地方裁判所で行われる、殺人や傷害致死などの重大な刑事事件の第一審において、国民から無作為に選ばれた裁判員が法廷で裁判官とともに裁判をおこなうもので、司法への国民の参加をすすめる、市民の肌感覚を裁判に反映さ

1 裁判員候補者名簿を作ります

選挙権のある人の中から、翌年の裁判員候補者となる人を毎年抽選で選び、裁判所ごとに裁判員候補者名簿を作ります。



2 事件ごとにくじで裁判員候補者が選ばれます

事件ごとに、①の名簿の中からさらに抽選でその事件の裁判員候補者を選びます。選ばれた方には、裁判所に来てもらう日時等をお知らせします。



3 裁判所で候補者から裁判員を選ぶための手続が行われます

裁判長から、被告人や被害者と関係がないかどうか、不公平な裁判をするおそれがないかどうか、辞退希望がある場合はその理由などについて質問されます。検察官や弁護士は、その質問の結果などをもとに裁判員候補者から除外されるべき人を指名することができます(双方4人まで理由を示さず、指名可)。



除外されなかった候補者の中から裁判員が選ばれます

効な証拠を準備し公判にのぞむ。そして、国民の中から選ばれた裁判員は、それらの証拠を見聞きし、有罪か無罪かを判断する。「裁判員に法律の知識はまったく必要ありません。制度については、法の素人が裁判に参加することが可能かという議論もありましたが、わたしは法曹界というひとつの世界にいる人間だけが決めるより、さまざま

せるのが狙いだ。

この制度の背景について刑事法を専門とする熊

本大学法学部の稲田隆司教授はこう語る。

「今まで司法、行政、立法の三権分立のうち司法

だけに直接民意を反映するシステムがありません

でした。そのため、法律のプロだけがこなう刑

事裁判にたいする国民の信頼が薄れていたという

背景があったと思います。」

試算によると、国民の116人に1人が一生に

一度、裁判員を経験する可能性があるという。

「裁判員制度」による裁判では、検察官、弁護士、

裁判官らが刑事訴訟法にもとづき事件に関する有

まな経験や考え方をもちた国民が参加することで、より合理性の高い裁判になると思います。また、このような制度を設けることで、裁判にたいする関心や理解度が高まり、法廷がより国民に開かれたものになるはず」と、稲田教授はこの制度の意義を語る。

ただし、まったく問題がないわけではない。「最も注意しなければならないのは、裁判員への証拠の提示が、適正な手続きによって行われるかどうかという点です。誤った証拠や不適切な証拠をみせられてしまえば、法のプロとちがい裁判員の場合には取りかえしがつかないからです」。加えて心配されるのは、報道の問題だ。「いくら裁判の手続きをきちんとし、取捨選択した証拠を提示しても、いまのようにあらゆる情報がたれ流しの状態では意味がありません。英国など諸外国のなかには、裁判の情報をかなり厳しく規制しているところもあります。日本でも、この点については今後真剣に検討していく必要があります。」と今後の課題を指摘する。



Hiroki Nakamatsu

弁護士

中松 洋樹

地域を支える法曹たち

なんらかの事件やトラブルに巻き込まれない限り、通常の生活ではなかなか身近に感じにくい法律。それだけに、なにかあったとき頼りになるのが地域の弁護士や司法書士だ。

熊本市坪井で同期の弁護士とともに弁護士法人事務所を立ち上げた熊本大学出身の中松洋樹弁護士は、つねに100件ほどの事件を抱えている。企業や個人の倒産にともなう債務整理や交通事故、遺産相続、不動産の敷金回収、悪徳商法やヤミ金融がらみの消費者問題と内容はさまざま。

「とくに破産、消費者問題は増えています。実際の訴訟の数が増加しているというより法的にきちんと解決すべき問題が処理されず眠っている状態です。それをすべて掘り起こしたら、いまの弁護士の数ではとても足りない」と中松氏は現状を説明する。いわゆる「ゼロワン地域」といわれる地方における弁護士不足の問題だ。全国的に見ると東京、大阪に弁護士が集中し、地方では極端な不足状態。この構図はそのまま熊本にもあてはまり、たとえば熊本県では熊本市に集

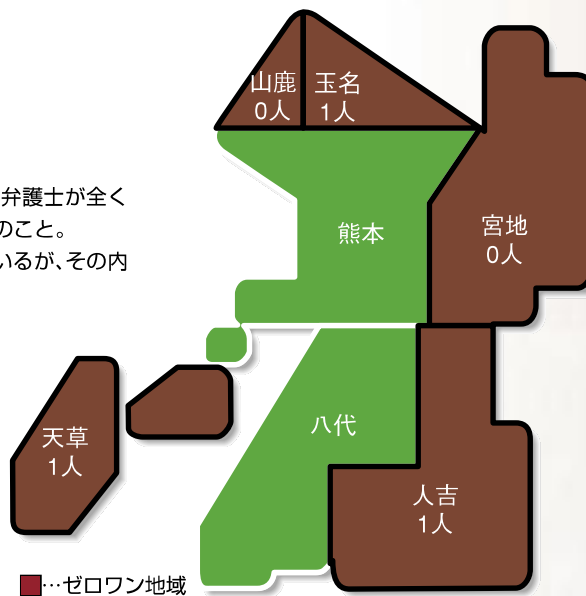


る弁護士不足の問題だ。全国的に見ると東京、大阪に弁護士が集中し、地方では極端な不足状態。この構図はそのまま熊本にもあてはまり、たとえば熊本県では熊本市に集

中し、郡部に「ゼロワン地域」が発生している。「法を知らないことで不合理な解決になっている例が多く見られます。もっと早い時期に相談できていればここまで深く傷つかずに処理できたの」というものや、事前に情報を提供していればこんなことに関与せずに済んだのだという事件がた

ゼロワン地域とは…

地方裁判所の支部が扱う地域の中に、弁護士が全くいない、もしくは一人しかいない地域のこと。熊本県内には100数十人の弁護士がいるが、その内の約9割が熊本地域に集中している。



(2004年6月現在)

くさんあります。地域、とくに郡部の人々がもっと簡単にアクセスできるシステムづくりが必要」と中松氏は語る。

現在は、日本弁護士連合会が全国公募した弁護士をゼロワン地域の公設事務所を送り込んでいるほか、熊本県でも県弁護士会が県内7カ所に週1〜2回法律相談センターを設置。中松弁護士ら会員が交代で相談を受ける体制をとっている。

弁護士や司法書士は、直接事件を解決する本来の業務のほかにさまざまな公益事業にもかかわっている。たとえば、消費者法についての講演会を各地で開いたり、学校などの教育現場で法律問題を話したり。また、国の広報がはじまったばかりの「裁判員制度」への啓発もいち早く着手、地域住民の協力なしでは成立しえない制度への理解促進のため、各地で一般公開の模擬裁判を開いている。中松氏の場合、人権擁護委員会、法律相談センター運営委員会、倒産法の委員会など多岐にわたって活動している。



「早く相談に来ればよかった」「気が楽になりました」「思いつめてたけどホッとしました」

そんな依頼人の言葉を支えに、連日深夜まで仕事に追われる日々。中松弁護士ら法曹は、法をつうじて地域の人々の生活を守る役割をはたしている。



九州大学や鹿児島大学と連携し、テレビ会議システムを用いて遠隔授業を行い、九州全体の法曹養成を推進している。

法化社会を担える新時代の法曹

現在、年間約千人程度の司法試験合格者を段階的に三千人に増やし、弁護士、検察官、裁判官の数を大幅に増やそうという国の法曹倍增計画。その人材養成を担うのが、今春から全国68カ所でスタートした法科大学院だ。こ

れまでの国家試験合格のための予備校の学習とは違い、より専門的かつ実践的な内容を学ぶことで、高いリーガルマインドを持った人材を育てることを目指している。

熊本大学の法科大学院でも、九州大学や鹿児島大学などとも連携をとりながら、地元弁護士会の協力も得て実践的な講義を作り、現在30名が学んでいる。



Koichi Ushijima

法科大学院

牛島 浩一



Masaru Itai

弁護士

板井 優

そのひとり、牛島浩一さんは、19年前に熊本大学文学部哲学科を卒業後、今春まで久留米市役所で地方公務員として勤務していた。「行政の仕事は多岐にわたっています。数年で配属される部署も変わりますが、それぞれの業務には法的な背景があります。しかし、さまざまなケースの処理の仕方はおぼえても、それがどういう法律にもとづき、どういう合理性を持っているのかまで掘り下げるのはかなり難しい。その欲求不満がずっとあったんです。」と法科大学院進学 of 動機を語る。

牛島さんは、司法試験に合格したら、これまでのキャリアを活かした行政面のサポートができる弁護士になりたいと考えている。たとえば、行政の法的な相談にのったり、行政対象の法律セミナーをおこなう仕事など。

将来は、法廷だけでなく、社会のさまざまな場面で、牛島さんのように自らのキャリアや専門分野を活かした弁護士が登場してくることだろう。

元公務員、企業人、学生、司法試験の予備校生など、年齢も経歴もさまざまな法科大学院生は早

ければ2年後には司法試験に挑むことになる。熊本大学は、地元への法曹の定着を期待する地域の要請に応えるべく、今後ますます進む「法治社会」で地域を支える人材の輩出に力を注いでいる。

弱者のリターンマッチと司法の裁判制度

前例のない判決を勝ちとり全国的にも注目をあびる裁判を次々に手がける第一線の弁護士、板井優氏。熊本大学卒業後25年にわたり地元熊本で活動を続け、来年度から母校の法科大学院で「環境問題と法」という講義を担当する。

「裁判とは何かと問われたら、弱者のリターンマッチだと言いたい。社会の中で弱者の権利や人権が侵害されたら、それを解決できるのは裁判所だけ」と語る。

板井氏がいま手がけている大きな裁判は、今年5月に勝訴した川辺川利水事業につづく川辺川ダム事業認定取消訴訟、原爆症認定訴訟、トンネル塵肺訴訟などで、いずれも弁護士団長を勤めている。また、過去にも水俣病の国家賠償訴訟やハンセン病国家賠償訴訟など、環境や人権に関する重要な裁判を事務局長として闘ってきた。これらの裁判は、いずれも、日本の裁判の流れを変えたという点で大きな意味を持つものである。

「水俣病総合医療対策事業という患者救済制度を成立させることで約1万1000人が救済されることになりました。また、ハンセン病については、国が人権侵害という憲法に違反する隔離政策をとったことが断罪されました。このときの政府の控訴断念は明治以来の快挙。三権分立をうたい

ながら、現実には行政が圧倒的に強いという構図がおおきな曲がり角を迎えた裁判であるといえると思います。」と板井氏はふりかえる。

また、現在進行形の川辺川問題についても、「行政の行き過ぎを司法が是正するという仕組みが少しずつ、できあがりつつある歴史的な時代の裁判」と位置づける。自然環境も含め地域の資産をどのように活用するかを決めるのは、中央政府ではなく、その土地に暮らす住民自身。

「情報を公開し、住民参加、住民決定により、住民が主人公となる社会システムを、裁判をうじて実現していくことが重要」と板井氏は考える。

「これからの時代は、消費者問題などのような身近なトラブルを量的に解決していく弁護士集団、そして、それらもふまえ、社会システムをよりよい方向へと変えていく弁護士集団、その両方が必要。それらの集団の仲間になってくれる人材を育てたい」と、若き後輩たちに期待をよせている。

法律とは、人が生きていくための最低限のルールだといわれる。そして、法をつうじて人々の悩みを解決する弁護士などの法曹は、病気のときにそれを治療する医療従事者のようなものだと言った法曹の専門家たちは語る。

さまざまな価値観を持った人々が暮らす社会、その一人ひとりが安心して暮らしていくための法律。よりよい地域社会をつくっていくためには、私たち一人ひとりが、法へ関心を持ち続けることがなによりも重要なことである。

天体の魅力を伝える研究者

学問の喜びを発見し、夢を追い続ける研究者たちに話をきくこのシリーズ。今回は、インターネット天文台の開発で知られる教育学部の佐藤毅彦助教授を訪ねました。

少年時代、星に魅せられ天文学の世界へ

「私は東京生まれの東京育ちなので、子どもの頃は自然とのふれあいは不足がちでした。だからなおさら、小学4年生の時、夏の林間学校で見た星の美しさは印象的で、それはもう大きくて明るくて、とても感動しました！」

それ以来、佐藤少年は天体に興味を持ち、中



熊本教育学部屋上に設置されているインターネット天文台。開閉式の屋根を備え、全てがオンラインで操作できるようにになっている。

学・高校は天文部に所属。その後、進学した東京理科大学理学部では、当時は天文学を専門に勉強できる環境に恵まれず、趣味として楽しもうと学生サークルの天文部で活動していました。すると、なんと同大学に天文学の専門家である川端潔教授が赴任してきたのです。川端教授との出会いにより、本格的に天文学に没頭するようになり、大学院に進んで天文学研究で博士号を取得。「まるでわらしべ長者のように、天文学への道が開けていったんです」。卒業後は友人の紹介により、ハワイ大学天文学研究所に客員研究員として赴任。そこで木星オーロラの観測・研究に取り組みます。「木星のオーロラ画像をたくさん解析しているうちに、時々オーロラの横に光る点が現れることに気づき、調べてみると木星の衛星（月）のひとつであるイオの動きに同期していることを「発見！」これは、有名なアメリカの科学雑誌「サイエンス」に掲載される研究成果となつたんですよ」。この研



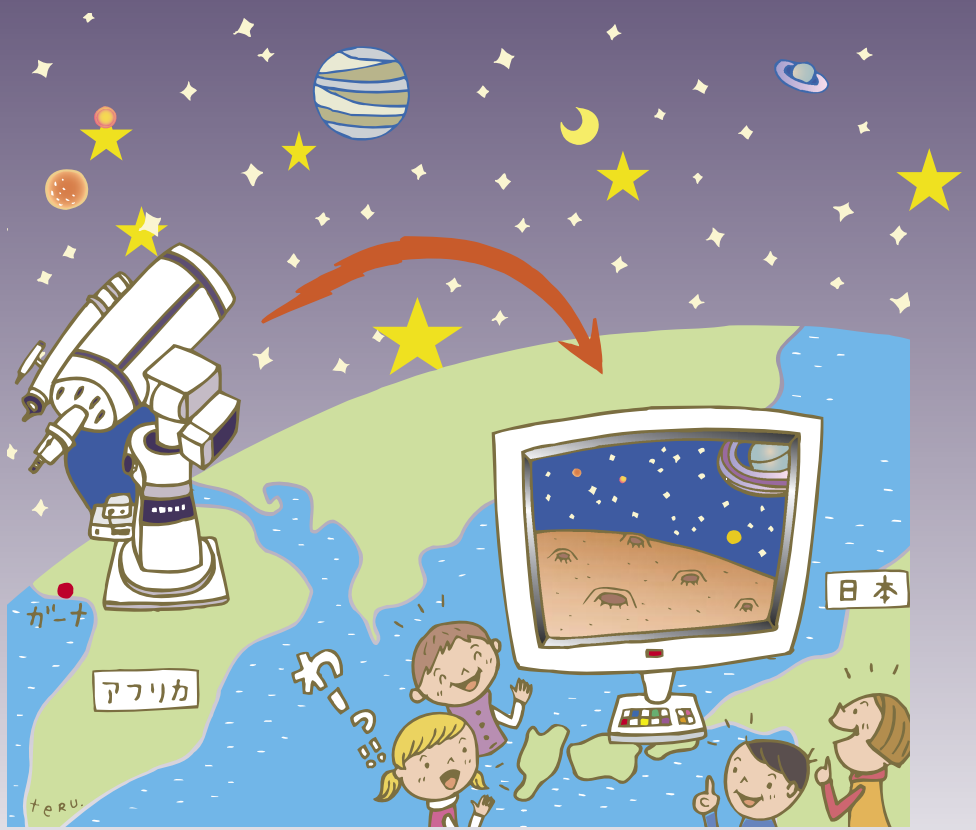
PROFILE

佐藤毅彦(さとう・たけひこ)
1962年生まれ。東京都出身。熊本教育学部助教授。理学博士。東京理科大学大学院理・物理博士課程修了後、ハワイ大学天文学研究所、NASAゴダード宇宙センターの客員研究員を務め、2001年、熊本大学へ。1998年よりインターネット天文台プロジェクトを推進している。

究を通して知りあったNASAの研究者の紹介により、ハワイで1年半過ごした後は、NASAゴダード宇宙センターの客員研究員となり、木星オーロラの研究を継続。「5年に及んだハワイとNASAでの生活は、まさに研究三昧の充実した日々であるとともに、国外から日本の姿を客観的に見つめることもでき、視野を広げる貴重な時期でしたね。また、人との出会いの大切さも身に沁みました」。

机上のパソコンで天文台を操る！

平成9年春に帰国し、母校東京理科大学計算科学フロンティア研究センターの講師に着任。再会した慶應義塾高等学校の地学教師の旧友らとともに、「せっかくなら日本に帰ってきたんだから、天文学教育の分野で一緒に面白いことをやろう」ということに。そこで平成10年よりスタートしたのが、インターネット天文台プロジェクトでした。インター



ネットを経由して教室にしながらパソコンで天体望遠鏡やCCDカメラを遠隔操作し、天体をリアルタイムに見ることができる天文台。それを理科教育に活用しているというのです。プロジェクトは着々と進み、1号機を慶應義塾高等学校に、2号機を東京理科大学に設置しました。そして平成13年、熊本大学教育学部の助教として赴任し、翌年には同大学教育学部理科棟の屋上に3号機のインターネット天文台をつくりました。「面白いこと

までは」と願をかけてのばしていたヒゲを剃りました。昨年12月、天草の小学校で「インターネット天文台」を使った授業を実施。日本とガーナは約9時間の時差があるため、日本の昼間にガーナは夜中となり、子どもたちは授業の時間帯にガーナの夜空をリアルタイムで観察することができるのです。スクリーンに月面の凸凹や土星の環が大きく映し出された時、子どもたちは「ウワァ〜」と驚

きやろう』から始まったプロジェクトが、どんどん大きくなっていきました。ガーナの夜空が日本の教室へやってきた国内の3基にはとどまらず、「次は海外にインターネット天文台を！」と、さらに夢は広がります。平成15〜16年度科学研究費補助金基盤研究海外学術調査を受け、遙かアフリカのガーナにインターネット天文台を設置する計画が動き始めます。事前準備から設置まで幾度もガーナへ渡航。「何が苦労して…：ガーナに行くのに丸2日もかかることです」。日本でインターネット天文台を製作し、はるばる海を越えて輸送しました。ガーナの高校の屋上に設置し、夜間、マラリアの危険にさらされながら最終調整の作業。無事、作業が終了した時、「天文台が完成するまで」と願をかけてのばしていたヒゲを剃り

きやろう』から始まったプロジェクトが、どんどん大きくなっていきました。ガーナの夜空が日本の教室へやってきた国内の3基にはとどまらず、「次は海外にインターネット天文台を！」と、さらに夢は広がります。平成15〜16年度科学研究費補助金基盤研究海外学術調査を受け、遙かアフリカのガーナにインターネット天文台を設置する計画が動き始めます。事前準備から設置まで幾度もガーナへ渡航。「何が苦労して…：ガーナに行くのに丸2日もかかることです」。日本でインターネット天文台を製作し、はるばる海を越えて輸送しました。ガーナの高校の屋上に設置し、夜間、マラリアの危険にさらされながら最終調整の作業。無事、作業が終了した時、「天文台が完成するまで」と願をかけてのばしていたヒゲを剃り



ガーナのテマ高校屋上に設置した天文台の中で、現地の子もたちと。この天文台が天文の学習だけでなく、草の根レベルでの両国友好につながることも願っています。

多くの子どもに伝えたい！無限に広がる天体の魅力

きの声を上げ、「初めて見た！」と大喜び。「そう、いつでも生の天体の映像を見ることができて、子どもたちを感動させられるというのが、インターネット天文台の醍醐味。日本の教室に地球の裏側から夜空を持つてくる…まさに夢の実現です！」。

「インターネット天文台は理科の天文分野の授業方法を大きく変えると思います。インターネット天文台の活用が学習指導要領に採用され、小・中・高校の授業が、難しい理屈中心ではなく、魅力的な天体の姿を中心としたものになることが、これからの夢」。そのためには、もっとインターネット天文台を増やしてゆくことが必要であり、授業への積極的な導入が望まれます。「月や星の姿をきっかけに、子どもたちが天文学への興味を深めていくことになったら、素晴らしいと思います。また、それは大学での勉強にも言えること。どんな分野の研究も、つきつめていけばとても面白いものですよ」。

インターネット天文台は、予約をするだけで誰でも使うことができます(教育利用は優先されます)。ホームページの「情報室」「資料室」で使い方などを理解した上で、「事務室」のフォームから利用予約をしてください。



インターネット天文台

<http://rika.educ.kumamoto-u.ac.jp/ASOB-i/>

熊
大
群
像

熊本大学学務部学生課長

富高 英雄

人と向き合う「礼」の心 柔道精神を伝えたい

旧制第五高等学校創立以来の歴史を持つ熊大柔道部。その中で、30年以上にわたり指導者を勤めてきた人がいます。熊本大学柔道部コーチ、富高英雄さん。「私にとって柔道は人生の一部」と語る富高さんは、地域の中学校、高校でも長年にわたり子どもたちを指導。柔道を通じて、青少年の育成に大きな貢献をしています。

柔よく剛を制す

富高さんが柔道を始めたのは、中学生のとき。身長138cm、体重38kgと小柄だった富高さんに柔道の先生が教えてくれたのは「柔よく剛を制す」という言葉。「小さい体でも、相手の力を利用すれば大きな選手にも勝つことができる。だから、試合で大きな相手が現れると嬉しかったですね」と、当時を振り返ります。

柔道の名門鎮西高校へ進学し、県大会を制覇、全国大会でも活躍。その後、昭和42年に熊大職員となったのをきっかけに、後進の指導に当たるようになりました。

熊大柔道部はもちろん、母校や地域の中学生たちに、休日も返上で指導をしたり、昇段試験の審判員をしたり。それ以来、本業と柔道指導両立の忙しい日々が、今日まで30年以上も続いています。

「礼に始まり礼に終わる」武道の精神が、青少年の心の鍛錬に役立つと考える富高さん。「柔道を通じて、人と向き合う心、いつも自然体で物事に動じない精神を養って欲しい」と、語ります。

富高さん自身の座右の銘は、柔道の創始者であり旧制第五高等中学校の第三代校長でもあった嘉納治五郎氏の「道に従えば勝を制し行つて人



母校の教え子たちも全国で大活躍している。





第三代第五高等学校長
嘉納治五郎
(1860 ~ 1938)

順道制勝行不害人

嘉納治五郎は万延元年(1860年)、兵庫県武庫郡御影町(現神戸市灘区)に生まれた。従来の柔術を統合改良し、講道館柔術を創始した。明治24年、第三代第五高等学校長に就任。柔道を奨励して大柔道場「瑞邦館」をつくり、また各運動部の一体化を指導し、龍南会会長として五高のスポーツを隆盛に導く力となった。また龍南会雑誌の刊行など文化活動の基礎を造った。嘉納校長が、揮毫した「順道制勝行不害人」の額は永らく柔道場に掲げてあったもので、講道館柔道の精神を表現したものである。



PROFILE

富高 英雄(とみたか・ひでお)
熊本大学学務部学生課長、柔道6段。
熊本県出身。

富高さんは、熊大柔道部コーチとして、仕事の後欠かさず道場へ顔を出します。当然部員たちとの関係も公私共に深まることに。「時には柔道の指導だけでなく生活指導に当たることもありますよ」。そうやって卒業していったOBたちが4年に一度集まる親睦会が、富高さんの一番の楽しみ。「学生時代やんちゃだった子が

立派な社会人になっていく姿を見ると柔道をやっている本当に良かったと思います」と晴れやかな笑顔。柔道を通じて地域に大きく貢献している富高さんですが、実は、熊本以外の土地でも大きな足跡を残しています。平成7年から3年間赴任した鳥根県の国立三瓶青年の家では、柔道、剣道、茶道など伝統文化を伝

と夢を共有しました。「柔道をやっていることで、全国に仲間ができました」。熊本、鳥根のみならず、富高さんの指導を受けた多くの青少年たちは、全国大会や世界大会で現在も大きな活躍をしています。**定年後は世界の子どもたちと**

「子どもたちに教えるには、まず身を持って…」と考える富高さんは、自らの心身を鍛えることも怠りません。デスクワークの合間の昼休みに、ジョギング2km、バーベル50kgを50回、腹筋、背筋各40回のトレーニングをこなし、忙しい合間を縫っては九州や全国の高段者大会にも出場。自らの限界への挑戦も続けます。

柔道で広がる人の輪

を害わず」という言葉。「常に謙虚で、勝っておこらず。気力を充実し、限界まで挑戦してこそ初めて気付く精神」だといいます。



池田勇人や佐藤栄作(元首相)なども所属していた伝統ある熊大柔道部。現在部員は17名。小沢雄二監督兼部長(熊大教育学部助教授)を中心に、国立大学の全国大会ベスト4入りを目指す。

えるための施設「文武伝承館」を国の認可を得て設立。全国の若き柔道家たちが集える場を創り、高校女子柔道の全国大会も創始しました。

特に、谷亮子(旧姓田村)選手や古賀稔彦選手などオリンピックのメダリストたちを招いての合同練習では、世界を制する鋭い技を参加者全員が身をこめて経験。大きな励み



革新的ビジネスへの挑戦

熊大の仲間であち上げたベンチャー企業

昭和53年、7名の有志が集まりひとつの新しい会社が生まれました。それまでアメリカの製品に頼っていた日本の臨床検査の分野に自分たちの技術と知識とアイデアで挑み、今は世界に誇る技術を持ったトップ企業へと成長を遂げました。設立から今日に至るまで同窓意識で固く結ばれた熊大卒業生、松崎駿二さん、肥川勇二さん、平田勝憲さんにお話をうかがいました。

熊大出身者で集まって作ったベンチャー企業

―会社を設立されたきっかけは？

松崎 熊大工学部工業化学科を卒業後は、技術志向の営業マンになろうと思ひ、化学分析装置を製造・販売している会社に就職しました。営業や開発など様々な部門を経験しまし

たが、昭和40年代中頃から本格的に立ちあがってきた日本の臨床検査市場とアメリカの市場とは差異が大きく、アメリカ仕様の装置では日本の顧客ニーズに答えられないことを痛感しました。そこで、日本の市場が求める生産性の高い装置を自分たちで作ろうと創業を決意したのです。会社の同僚で熊大出身者だった、物

理屋の山内章生さん

(理学部卒)、化学屋

の肥川勇二さん(工

学部卒)、電気屋の

正岡一敏さん(熊大



代表取締役 松崎駿二



取締役 肥川勇二

附属検査技術士学校卒)と志を同じくして退社。検体検査装置を製造する上で必要不可欠な機械屋がいなかったため、学生時代にやっていたバンドの後輩で、当時ミシンメーカーに勤めていた平田勝憲さん(工

学部卒)を誘いました。それぞれの分野のスペシャリストが集まり、会社は走り出しました。

平田 前の会社に退職届を提出する前日になって初めて家内に話しました。考える間もなかったでしょうが、



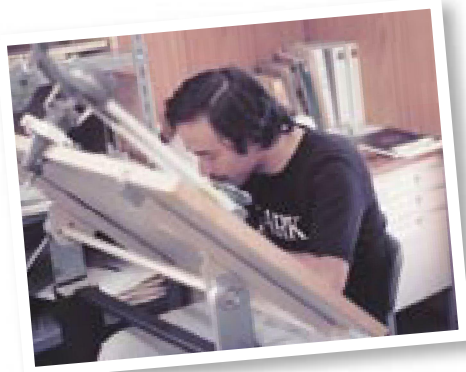
株式会社エイアンドティー

資本金：577,610千円

従業員数：312人(2003年12月31日現在・グループ)

営業所：札幌、仙台、横浜、名古屋、大阪、福岡、サンフランシスコ

<http://www.aandt.co.jp/>



会社設立当時の写真。ドラフターを使って設計している平田さん。

検査室を総合的にサポートするため、A&Tを含む8つの企業がそれぞれの特性を活かし統一規格で作られた、世界トップレベルの検体検査システム。検体の搬送や様々な検査を自動的に素早く正確に行うことが出来る。



とくに反対することも無く、転職を応援してくれました。家内も松崎社長とは学生時代からの知り合いでしたので、新しい会社に対する不安は少なかったのかもしれませんが。

―会社設立当初の思い出深いエピソードは？

松崎 最初に世に送り出した装置は、東京で製造しましたが、周波数変換機能を持っていなかったため、

周波数の違う西日本地区でトラブルが多発。少ない社員で対応に飛び回りました。沖縄への日帰り出張なんかは、しょっちゅうでした。しかし我々の結束力が強かったこともあり、躊躇することなく直ちにモデルチェンジを実行。危機を乗り切ることができました。トラブルへの迅速な対応で好感を得たことも知名度の急速な向上につながり、爆発的にヒットしたんです。東京大学や大阪大学など日本の名だたる大学附属病院に設置してもらえました。

肥川 徹夜の連続でした。昼と夜が逆転した生活で、眠たくなったらテーブルの下に布でカーテンを作っていたみたいです。

平田 当時はCADなどの設計用ソフトなんかは無く、全て手書きで設計していました。パソコンでの作業とは違って書きなおしが大変で、とても苦勞したものです。

後輩社員に期待

―企業のトップとして心がけておられることは？

松崎 透明性のある企業経営を目指して、創造性の高い競争力のある企業であり続けたいと考えています。そのために、「A&Tグループ企業行動憲章」を策定しました。また、公平性を保つため、入社した人間は同一ラインからのスタートとし、役員の子弟は入社できないようにしています。また現在も熊大とのつながりは強く、毎年研修生を受け入れ数名を社員として採用しています。後輩にも、是非面白い会社にしてほしいですね。

世界に誇れる日本の「ものづくり」産業

―後進へのメッセージをお願いします。

平田 「ものづくり」のスタートは

全てアイデアです。クリエイティブな発想を持って、新しいことにどんな挑戦してください。また、自分がどんな環境に置かれようと、そこで生きがいを見つけてほしいですね。自分の意にそぐわない環境でも、探せばそこに生きがいはあるはずですよ。

肥川 大企業に勤めたからといって、やりたい仕事を出来るかどうか分かります。大きい木に寄りかかっているだけでは、人生は開けていかないでしょう。いろんな成り行きの中で人生が決まっています。が、どこまで前向きになれるのかが一番大切です。

松崎 日本の工業技術のレベルは世界でもトップクラスです。1時間に約800テストを行う検体検査装置は日本の会社しか作れません。メカトロニクスの分野では、これからも日本の技術が世界をリードしていくでしょう。世界の最先端で、世界に誇れる仕事をやってほしいですね。

「ものづくり」でさらに欧米との差を広げるために、後進の皆さんが私たちのさらに先へと進んでくれることを期待しています。また、「ものづくり」のベンチャーは難しそうなイメージがありますが、これから益々可能性があります。まだまだベンチャーはどんどん作れるはずですよ。



監査役 平田勝憲



国際交流
 ~国際総合大学としての熊本大学~

もっと学びたい

~再留学を決めたその理由~

ニュージーランド出身 ポール・ウェイさん

昨年2月、ニュージーランドのマッセー大学から文部科学省の留学制度を利用して1年限りの予定で熊本大学を訪れたポール・ウェイさん。今年4月からは私費留学生として再留学しました。なぜ、熊大でもう一度学ぶことを決意したのか、その理由に迫ってみました。



ニュージーランド(New Zealand)
 ●面積… 27万534 km²
 ●人口… 約400万人
 ●首都… ウェリントン

台湾からニュージーランド、 そして日本へ

「子どもの頃から日本に留学する事が夢でした」と、流暢な日本語を操るポールさんはニュージーランドから来た留学生。しかし、一見日本人と間違えそうな風貌です。それもそのはず、生まれは隣の台湾。

中学1年の頃、子どもの教育に熱心な両親が、子どもの自主性を尊重するニュージーランドの教育環境の中で我が子を育てようと台北からの移住を決意したそうです。

2003年2月、文部科学省の日本語・日本文化研修留学生に選ばれ、いよいよ日本留学が実現することになりました。熊本大学を初めて訪れた時、その緑に囲まれたキャンパスをひと目で気に入り、また授業の大半が大講堂の講義ではなく、少人数制のクラスで行われることを知り、自分にとって最高の学習環境だと感じたそうです。

熊大で勉強させてほしい

今年の1月からは奨学金の期限が切れましたが、自分の意思で私費留学生として熊大に再留学することを希望しました。「熊大は留学生のサポートがしっかりしていて、勉強す

るには最適の環境だったから。でも、なにより友だちがいっぱいできたので、まだ熊本を離れたくなかったことが最大の理由ですね。」

しかし、ポールさんにとって、私費で留学するための費用をどうするかが問題でした。そこで奨学金の期限があと半年に迫った頃、思い切つてニュージーランドの両親に相談することに。

「将来、自分がどんな分野に進むのが良いのか、それを考えるための充実した環境が熊大には整っていると思う。だからこここの大学院で勉強させてほしい。」

その強い決意に、もともと教育熱心である両親は「そんなに意欲があるのなら」と大賛成。進学にかかる費用の援助を引き受けてくれたそうです。

もっと日本が大好きに！

「小学生の頃から、雑誌やテレビで紹介される日本にとっても興味がありました。いつか日本に留学したいと思い始めたのもその頃かな」。祖父と祖母が日本語を話せたこともあり、幼い頃から日本は身近な存在だったようです。

それでも来日当初は異国の地で生活することの難しさに直面。市

役所に提出する書類の書き方がわからず、誰にも相談できずにひとりで悩んだりすることも。そんな時、知り合つて間もない同じ講座の学生が「一緒に市役所に行つてあげるよ」と声をかけてくれ、手続きが終わるまでしっかりサポートしてくれたそうです。そんな熊大生の優しさに触れて感激し、今まで以上に日本が大好きになったと言います。

帰国後は日本で学んだことを生かしたい

現在、大学院教育学研究科の鳥飼香代子教授のもとで住居学の研究に取り組む毎日。留学生活もトータルで約1年半、今の心境を尋ねると、「一番良かったのは、信頼できる日

本人の友だちがたくさん出来たこと。それに初めて一人暮らしを経験したことで、少しだけ自分がたくましくなつたような気がしています」

また、研究中の住居学については、「日本は環境に配慮した住まいづくり、例えばバリアフリーや熱効率を考えた省エネの技術がとて進歩している国です。そんな最先端の学問を研究できることをとても幸せに感じています」。

さらに、「ニュージーランドに帰つてから、ここで学んだことを実践してみたいというのが今の私の夢です。だからこそ、残りの1年半を悔いが残らないように一生懸命研究に励みたいです」と、その意気込みを語ってくれました。



PROFILE

Paul Wei (ポール・ウェイ)
1979年台湾生まれ。13歳の時に家族と共にニュージーランド、オークランドに移住。2003年2月、マッセー大学から日本語・日本文化研修留学生として熊大へ。現在は、大学院教育学研究科に在籍中。

日本語・日本文化研修留学生

外国の大学学部在籍する人で、日本語・日本文化に関する分野を専攻している人を対象とします。研修期間は1年間で、留学のための渡航費用と奨学金が支給されます。

10/9

日本養護教諭教育学会 第12回学術集会 (熊本大会)

13:00~17:00

10/10

9:00~12:00 14:00~16:30

特別講演会

「養護教諭のヒューマンスキルと
学校組織の活性化」
吉田道雄(熊本大学)
「ユニバーサルデザインと教育」
潮谷義子(熊本県知事)

シンポジウム

「養護教諭の専門性の新たな追求と発信」

- 会場/熊本県民交流館パレア
- 対象/一般
- 参加費/4,000円

お問い合わせ

熊本大学教育学部養護教諭養成課程
松田芳子
E-mail matsuda@educ.kumamoto-u.ac.jp
TEL 096-342-2934

11/6

日本機械学会第12回機械材料・ 材料加工技術講演会

無料

11/7

●会場/熊本大学工学部

お問い合わせ

熊本大学工学部知能生産工学科
里中
E-mail satonaka@mech.kumamoto-u.ac.jp
TEL 096-342-3786

11/22

水環境汚染物質の 動態評価研究

13:00~17:00

無料

- 会場/熊本大学大教センターC-301教室
(予備:理学部321教室)
- 特別講演/13:00~15:00
松井三郎氏(京都大学大学院地球環境学堂)
井口泰泉氏(岡崎統合バイオセンター)
- 一般講演/15:15~17:00

11/1

セクハラ防止啓発シンポジウム 「キャンパスの中心で、セクハラ撲滅をさげふ」

14:00~

無料

みんなで、考えてみましょう。
セクハラのない、熊大にするには、どうすればいい?

著名な弁護士さんや
有識者をパネリストに
招いています。

パネリスト
辻本 育子氏(弁護士)
小野 和子氏
(元京都大学教授)ほか

みなさまの参加をお待ちしています。

- 会場/熊本大学文・法学部棟A1教室
- 熊粹祭協賛 熊本大学セクシャル・ハラスメント防止委員会

入試情報

(平成16年10月1日現在)

■大学院入試日程■

選 抜 区 分	願書受付期間	試 験 日
文学研究科(修士課程) 社会人特別選抜を含む (第2期・春季日程)	17/1/17 月21(金)	17/2/14 月 15(火)
法学研究科(修士課程) 社会人特別選抜及び 外国人留学生特別選抜を含む(第2期)	17年 1月中旬	17年 2月中旬
医学教育部(修士課程)《春季日程》	17年 1月上旬	17年1月下旬
医学教育部(博士課程) 社会人特別選抜を含む《春季日程》	17年1月上旬	17年2月中旬
薬学教育部(博士後期課程) 社会人特別選抜を含む 社会文化科学研究科(博士課程) 社会人特別選抜及び 外国人留学生特別選抜を含む《春季日程》	17年 1月下旬	3月上旬
自然科学研究科(博士前期課程) 外国人留学生特別選抜	17/1/18 火24(月)	17/3/1 火
自然科学研究科(博士前期課程) 学部3年次を対象とする選抜	17年 2月上旬	17年 2月下旬
	17年 2月下旬	17年 3月上旬

■編入学・専攻科・別科入試日程■

選 抜 区 分	願書受付期間	試 験 日
特殊教育特別専攻科	17年2月上旬	17年 3月上旬
養護教諭特別別科	16年12月上旬	17年1月中旬
医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻	16/12/6 月12/10 (金)17/1/7 (金)	

※予定が変更されることもあります。
ホームページ等でご確認下さい。

お問い合わせ

熊本大学学務部入試課 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号
TEL 096-342-2146 FAX 096-345-1954 E-mail nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp
熊本大学ホームページ <http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html>

10/30 ~ 11/1

熊粹祭・本九祭

ユウスイサイ ホンキュウサイ

黒髪北・南キャンパス、
医学部キャンパス、
薬学部キャンパスで
それぞれイベント
盛りだくさん。

模擬店

展示シンポジウム

Zoological Science Award (日本動物学会論文賞)を受賞

受賞論文名

Biology of the amphioxus *Branchiostoma belcheri*
in Ariake Sea-I,II
(有明海におけるナメクジウオの生物学-I,II)

平成16年9月11日に行われた日本動物学会の
総会において、沿岸域環境科学教育研究センタ
ーの逸見泰久教授が、「Zoological Science Award
(日本動物学会論文賞)」を受賞しました。

この賞は、Zoological Science に年度内に掲載
された論文の中から、特に優れた研究に対して
贈られるもので、今回は平成15年度中に掲載さ
れたものの中から、選ばれたものです。



逸見教授

熊本大学新制大学55周年 法人化元年記念

参加無料

熊本大学いのちのちのフォーラム

10/30
土

●時間／13:30～17:00
●場所／熊本テルサホール(500席)

挨拶

熊本大学長 崎元 達郎氏

記念講演「いのちの危機、心の危機」

～電子メディアと子供の成育～
ノンフィクション作家・評論家 柳田邦男氏

絵本の朗読「エリカ 奇跡のいのち」

いのちパネルディスカッション

テ ー マ：いのちを育む社会
コーディネーター：小川道雄氏(県立延岡病院長・元副学長)
ディスカッサント：柳田邦男氏、潮谷義子氏(熊本県知事)、
高橋隆雄氏(熊大文学部)



柳田 邦男

ノンフィクション作家、評論家。
1936年(昭和11年)栃木県鹿沼市生まれ。
1960年東京大学経済学部卒業。NHK記者として14年間報道の
仕事に携わった後、フリーの作家活動に入る。現代人の「いのち
の危機」をテーマに、戦争、災害、事故、公害、病気などのノンフィ
クション作品や評論を書き続けている。最近、終末期医療、医
療事故、脳死問題、心の危機、言葉の危機、少年事件、絵本の重
要性などについて、積極的に執筆と講演をしている。

10/31
日

●時間／17:30～20:30
●場所／熊本大学工学部百周年記念館(200席)

一部

スクランブルコンサート

(尺八、シンセサイザー、民族楽器とのセッション)
熊本の民話、いのちに関する文学作品の朗読

二部

小野 友道副学長、太田 明恵楓園自治会長による挨拶

「いのちの電子メール」太田國男氏

結純子ひとり芝居「地面の底がめけたんです」
—あるハンセン病女性の不屈の生涯—

＜お申し込み方法＞

郵便番号、住所、氏名、電話番号をご記入の上、官製復ハガキにてお申し込みく
ださい。なお、10月30日は500名、10月31日は200名の先着順とさせていた
だきます。定員になりしだい締め切らせていただきます。両日参加ご希望の方は、
その旨ハガキに明記してください。

- お申し込み先 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号 熊本大学生涯学習教育研究センター内
熊本大学いのちのフォーラム実行委員会
- お問い合わせ先 TEL.096-342-3280
- ホームページアドレス <http://www.yuusui.net/inochi>

11/2
火

日本地下水学会 2004年度秋季大会 公開シンポジウム

13:00～17:00

無料

「水質・水量から見た健全なる地下水循環を求めて —熊本地域からの発信—」
コーディネーター:平田健正(和歌山大学)

■基調講演

健全なる地下水循環の確保は如何にするべきか?

榎根 勇(筑波大学名誉教授)

- 1.熊本地域の地下水構造
古閑美津久(国際航業(株))
- 2.近年の地下水流出の低減と
白川中流域低地の重要性
市川 勉(九州東海大学)
- 3.農業が果たす地下水保全
田上辰也(熊本市役所)
- 4.地下水取水企業の取り組み



- ①ソニーセミコンダクタ九州(株)の場合
佐藤富雄(ソニーセミコンダクタ九州(株))
- ②サントリー株式会社 九州熊本工場の場合
福澤健治(九州サントリーテクノプロダクツ(株))
- 5.江津湖の硝酸性窒素濃度変化とその対策
古川憲治(熊本大学)
- 6.地下水中の硝酸性窒素の低減対策
田中伸広(熊本県庁)

■パネルディスカッション

●会場／グランメッセ熊本
(大・中会議室、コンベンションホール)

熊本大学理学部 嶋田 純
TEL&FAX 096-342-3419
E-mail jshimada@sci.kumamoto-u.ac.jp

お問い合わせ

11/27
日

教育学部附属教育実践総合センター研究シンポジウム

13:00～17:00

「学校教育における 今日的課題解決の方途」

無料

～確かな学力を育てるための重要ポイント～

- 会 場／グランメッセ熊本
- 対 象／一般(保護者、教育関係者、学校教育に関心のある方)

お問い合わせ

熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
宮本光雄
TEL 096-325-3282 FAX096-352-3468

12/11
土

夢科学探検 2004

無料

10:00～16:00

科学の不思議と楽しさを
熊本大学で
体験してみませんか?

- 場所／熊本大学理学部・工学部
- 参加対象／小学生から一般まで

お問い合わせ

熊本大学理学部夢科学探検2004
実行委員会
TEL&FAX 096-342-3381(樽井)
E-mail yume@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp
<http://aster.sci.kumamoto-u.ac.jp/yume04/index.htm>





お薦めの一冊

『森の文化史』 只木良也著 講談社学術文庫
(初版2004年6月10日)



大迫 靖雄 理事

自然と人間とのかかわりという視点から、私の専門に関連した書物として、只木良也著「森の文化史」(講談社学術文庫)を紹介する。現代はバブル期の工業化社会の行き過ぎの反省から、環境問題が大きくクローズアップされてきている。そのため自然への回帰がいわれて久しい。ここで紹介する「森の文化史」は昭和56年に出版されたものに加筆、修正して本年改めて出版されたものである。筆者は信州大学、名古屋大学教授を歴任した森林生態学を専門とする研究者である。昭和56年から本年までの20年間の間に、筆者はNHK市民大学講座「森と人間の文化史」に出演している。この著もむしろこのタイトルがふさわしいものかもしれない。序論として、森と人のかかわりについて、かつて文明の栄えた地域の森の消失と同時に衰退した歴史を示し、森や木材がいかに人間と関係深かったかを示している。その後、森と人との関係から派生する森の種々の特性を述べ、最近の話題として森林と地球環境の関係に至るまで幅広い内容となっている。筆者は森林生態学者の立場から、森林に関するかなり高度な専門的分野を、学生時代落語に興味をもっていたといわれ話術を、特有の筆力に変えて、分かりやすく、また読みやすく記載している。石油会社からの脱却と自然の有効利用による文化の再構築という時代にマッチした書物として、ぜひ読んでいただきたい一冊である。



市民公開講座 「有明海・八代海を科学する」

主催:熊本大学(地域貢献特別支援事業) 共催:熊本県

日本最大級の干潟をもつ有明海・八代海は世界的にも特異で貴重な海域です。豊富な水産資源をもつ同海域も、近年、早急に解決しなければならない多くの問題が発生しています。熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターと熊本県水産研究センターでもこの問題に取り組んでおり、その成果を市民講座として紹介してきました。今年も、その後の研究成果の他に本年着任したセンター教員の研究紹介も加え内容の充実をはかり、下記のとおり市民講座を開催することとなりました。6回の講義では、沿岸域の生物・環境に関する最新の科学研究成果をわかりやすく解説し、干潟沿岸域の環境の保全創造について皆さまと共に考えたいと思います。また、有明海の見学・実習ツアーも予定しています。

多数のみなさまのお申し込みをお待ちしております。

講義		
開催にあたって	講師 内野明徳 (熊本大学沿岸域環境科学教育センター長)	実施日 10月21日(木)
「養殖ノリの未来にむけた遺伝子研究」	講師 滝尾 進 (同センター教授)	実施日 10月21日(木)
「有明・八代海の環境特性と再生・維持方策について」	講師 滝川 清 (同センター教授)	実施日 10月28日(木)
「有明海・八代海の生物」	講師 逸見泰久 (同センター教授)	実施日 11月4日(木)
「有明海にすむヤドカリの生態」	講師 和田 哲 (同センター助教授)	実施日 11月11日(木)
「つくり育て管理する漁業(資源管理型漁業・栽培漁業)の取組みについて」	講師 糸山力生 (熊本県水産研究センター資源研究部長)	実施日 11月18日(木)
「有明海の堆積物の変遷」	講師 秋元和寛 (同センター教授)	実施日 11月24日(水)



申し込み先 熊本大学学術研究協力部研究協力課 井上精二
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号
TEL.096-342-3143(直通) FAX.096-342-3149
E-mail:s-inoue@jimu.kumamoto-u.ac.jp

- 対象: 一般市民(100名)
- 日時: 左記の期日の午後6時30分~8時00分
- 場所: 熊本県民交流館パレア
熊本市手取本町8番9号テトリア熊本ビル9階第1会議室
- 参加費: 講義、実習とも無料

今年は戦後誕生した新制大学発足55周年、そして国立大学法人化元年の年にあたり、まさに熊本大学にとって第二の開学の年といえよう。本学でも学長をはじめ経営陣は、初めての国立大学経営に挑戦されているが、その目指すべきビジョンやプロセスなどを、学外のみならず学内の教職員や学生にキチンと伝えていくことは大学広報誌として重要な使命であると考えている。

これまで「熊大通信」の初期から編集に関わるなかで、将来の学生、保護者の方々、現役学生、企業、地域社会など多様な読者を念頭に置きつつ、アカデミックな香りと読み応えがある内容で、熊本大学の評価が高まるような広報誌とはどうあるべきか、毎回企画編集会議では悩ましい検討が続いてきた。今年度はフレッシュな編集メンバーが特集や記事にと個性を生かして誌面作りを分担しており、この取り組みが編集として成功してくれればと願っている。読者の皆さん、ご意見、ご感想、叱咤激励など、是非本誌への反響をお寄せ下さい。

(編集委員長：上野眞也)

編集委員

文 学 部	水元豊文
教 育 学 部	佐藤毅彦
工 学 部	緒方公一
発生医学 研究センター	糸 和彦
生涯学習教育 研究センター	上野眞也(委員長)
事務局／総務課広報室	
文 責／熊大通信WG	



表紙／板井榮雄
熊本大学五高記念館。正面の扉を開けると木製の手すりが優雅な曲線を描く階段が現れる。

熊本大学公式ホームページ
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html>

熊大通信では、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

● 宛先 ●

熊本大学総務部総務課広報室
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号
TEL:096-342-3119 FAX:096-342-3110
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

新 聞 だ
見 熊 本 大 学



7/22
熊本日日新聞



7/31
熊本日日新聞



8/27
熊本日日新聞



8/13
熊本日日新聞



8/27
熊本日日新聞



熊大医学部附属病院のホームページが新しくなります。

地域住民に役立つ情報の発信・地域医療連携活動の紹介

<http://www.kuh.kumamoto-u.ac.jp>

熊本大学医学部附属病院のホームページをリニューアルします。

本院のホームページにアクセスされる方の目的を考慮し、「診療のご案内」、「地域医療連携」、「教育・研究」、および「病院のご紹介」の四つの視点で本院をご紹介します。順次内容を充実させ、地域医療の充実と発展に貢献する情報を発信します。県下唯一の特定機能病院(高度の医療の提供、開発、研修ができる病院で、定められた要件を満たし、厚生労働大臣が承認したもの)として地域の医療機関とより密接な連携を取れるような情報発信を行います。本年4月の国立大学法人化を受け、説明責任を果たすべく本院の理念や現状、医療活動を含めた社会貢献活動を積極的に紹介していきます。

1 診療のご案内

外来診療や入院診療のご案内、多岐にわたる診療科ならびに院内組織の概要を紹介します。また、健康管理に必要な情報の掲載や、役立つ保健・医療・福祉関連サイトの紹介を行います。

2 地域医療連携

特定機能病院として地域の診療機関を積極的に支援する当院の高度医療技術、設備、担当医等の医療体制をご紹介します。また、地域医療連携センターの紹介や、電子カルテを用いた地域医療連携を目的としたひごメド・プロジェクトの紹介など、地域連携活動を具体的に紹介していきます。

3 教育・研究

本院の使命の一つに優れた医療人の育成があります。卒業臨床研修センターの紹介では、卒業臨床研修の必修化に対応した研修カリキュラムの内容や、各種の教育セミナーの内容を紹介します。また、本院における高度先進医療の取り組みや、治験支援センターの活動など、特定機能病院としての高度で先端的な医療開発研究活動も紹介します。

国立大学法人 熊本大学医学部附属病院

〒860-8556 熊本市本荘1丁目1番1号

地域医療連携センター

TEL.096-373-5717 FAX.096-373-5719 E-mail:renkei@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

外来予約センター

TEL.096-373-5973 FAX.096-373-5719 E-mail:yoyaku@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp

熊本大学

TEL.096-344-2111(代表)

※上記画像はイメージです。実際の画面とは異なる場合があります。